

循環器内科

【診療内容と現状】

当科では平成 22 年度より、毎日外来診療を行っています。

【診療実績】

令和元年度の当科入院総数は 216 名、なお前年度は 245 名でした。

【スタッフ】

大 庭 圭 介：常勤医師(循環器内科長)
清 水 博：常勤医師(循環器内科医)
海北 幸一(木)：非常勤医師(熊本大学病院)

【臨床業務】

外来では、狭心症や心筋梗塞、弁膜症や心筋症、不整脈や心不全など、心血管疾患全般の診療を行っています。冠動脈 CT を行っております。

紹介は予約無しでも随時受付可能ですが、前日までに紹介状を FAX 等で頂いた方が、待ち時間が短縮されます。心疾患という性質上、緊急性や重症度が高いケースを優先的に対応しております。

重症度が高い場合は、心臓血管外科を有する熊本市内の高次医療機関へ紹介し、救急車要請、時にはドクターヘリでの緊急搬送まで対応しております。

院内連携としては、外科、整形外科、産婦人科等における、術前の心疾患チェック等も行っています。

【今後の課題・展望】

平成 28 年から 2 名体制となりました。

重症度が高い患者さまをより多く受け入れていくことが、今後の課題・展望です。

代 謝 内 科

【診療内容と現状】

糖尿病、高血圧症、脂質異常症、高尿酸血症、下垂体疾患、甲状腺疾患（バセドウ病、橋本病、甲状腺腫瘍、その他）、副甲状腺疾患、副腎疾患（原発性アルドステロン症などの二次性高血圧症、その他）、電解質異常、その他の一般内科

【スタッフ】

川崎 修二（常勤医師）

役 職：内分泌・代謝内科長 兼 栄養管理室長 兼 地域健診室長
資格・所属学会：医学博士、日本内科学会（認定医）、日本糖尿病学会、
日本内分泌学会、日本体質医学会

【臨床業務内訳】

外来診療：月曜、水曜、金曜（1日 20～30 数名）、（火曜：臨時で数名程度）

年間外来患者総数：700 名以上

年間入院患者総数：93 名

うち、糖尿病関連 44 名（高血糖高浸透圧症候群 1 名）

代謝内科主治医の入院のみならず、外科、整形外科などの周術期の血糖管理を中心とした他科との併診を合わせると、常に 10～20 数名の入院患者を担当し、年間の担当入院患者総数は上記の数倍にのびります。

【現状と今後の展望】

2018 年 4 月より新任医師が赴任して現在にいたります。代謝内科は医師 1 名で診療していますが、糖尿病を中心に高血圧、脂質異常症、甲状腺疾患、その他の内分泌疾患など、幅広い疾患を診療しております。緊急性のある重症な疾患、あるいは希少な疾患についても、必要に応じて熊本大学病院、国立病院機構熊本医療センターなど、代謝内科関連病院と連携を取って治療に当たっています。また、日本糖尿病療養指導士、熊本地域療養指導士の資格を保有した看護師、薬剤師、栄養士、検査技師、理学療法士などと糖尿病対策チームを構成しており、他職種で糖尿病診療に当たっています。

2018 年度に改訂した糖尿病教育入院の臨床パスを利用し、14 日間の入院で効率的かつ効果的な教育、合併症検査、血糖コントロールを可能にしています。また、近隣開業医との連携を強化し、連携患者数も増加、糖尿病連携手帳を活用した鹿本圏域の糖尿病診療に貢献できていると実感しています。

今後もさらに、効率的な糖尿病合併症管理や生活状況管理のためのテンプレート作成、コメディカルの指導や糖尿病療養指導士の育成、周辺医療機関との地域連携のさらなる強化といったことを推進していく必要性を感じています。

外科

【診療内容】

一般外科、消化管(胃・腸)外科、肝胆膵外科、内視鏡外科手術、血管造影下治療、がん局所焼灼・凝固療法(ラジオ波・マイクロ波)、がん薬物療法、緩和ケア

【スタッフ】

豊永 政和

病院事業管理者

専門分野:外科

資格・所属学会:医学博士、マンモグラフィ読影認定医、日本外科学会、日本消化器外科学会、日本消化器内視鏡学会、日本人間ドック学会、日本乳がん検診学会

別府 透

院長(外科)・医療管理部長・医療安全管理室長

専門分野:消化器外科、肝胆膵外科

資格・所属学会:医学博士、FACS(Fellowship of American College of Surgeon)、日本外科学会(指導医、専門医)、日本消化器外科学会(評議員、指導医、専門医、消化器がん外科治療認定医)、日本肝胆膵外科学会(評議員、高度技能指導医、内視鏡外科プロジェクト副委員長、腹腔鏡肝切除プロジェクトWG委員長、大腸癌肝転移データベース委員会・委員、Scientific committee 委員、転移性肝癌国際ガイド作成委員会・委員)、日本内視鏡外科学会(評議員、技術認定医)、日本肝臓学会(評議員、指導医、専門医)、日本消化器病学会(評議員、指導医、専門医)、日本臨床外科学会(評議員)、日本肝癌研究会(幹事)、日本消化器癌発生学会(評議員)、肝臓内視鏡外科研究会(理事)、日本がん治療認定医機構(暫定教育医、がん治療認定医)、日本臨床腫瘍学会(暫定指導医)

赤星 慎一

診療部外科長・医療技術部長・がん相談支援センター長

専門分野:外科・消化器外科

資格・所属学会:医学博士、日本外科学会(指導医、専門医、認定医)、日本消化器外科学会(専門医、消化器がん外科治療認定医)、日本消化器病学会(九州支部評議員、指導医、専門医)、日本肝臓学会(暫定指導医、専門医)、日本消化管学会(胃腸科指導医、専門医、認定医)、日本肝胆膵外科学会(評議員)、日本がん治療認定医機構(がん治療認定医)、日本内視鏡外科学会、日本癌治療学会、日本胆道学会、日本臨床外科学会、日本腹部救急医学会、日本胸部外科学会

佐藤 伸隆

医療技術部薬剤科長・診療部外科医長

専門分野:一般外科

資格・所属学会:医学博士、日本外科学会(専門医)、日本消化器外科学会(専門医、消化器がん外科治療認定医)、日本消化器病学会(専門医、指導医)、日本消化管学会(胃腸科指導医、専門医、認定医)、日本がん治療認定医機構(がん治療認定医)、日本プライマリ・ケア連合学会(プライマリ・ケア認定医)、日本医師会認定産業医、日本内視鏡外科学会、日本臨床外科学会、日本大腸肛門病学会、日本胃癌学会、日本消化器内視鏡学会、日本癌治療学会、日本緩和医療学会、日本サイコオンコロジー学会、日本静脈経腸栄養学会、日本褥瘡学会

木下 浩一

医療技術部臨床検査科長、外科医師

専門分野:外科・消化器外科

資格・所属学会:日本外科学会(専門医)、日本がん治療認定医機構(がん治療認定医)、日本消化器外科学会(専門医、消化器がん外科治療認定医)、日本消化器病学会(専門医)、日本癌学会、日本癌治療学会、日本大腸肛門病学会、日本胃癌学会、日本食道学会、日本内視鏡外科学会、日本臨床外科学会

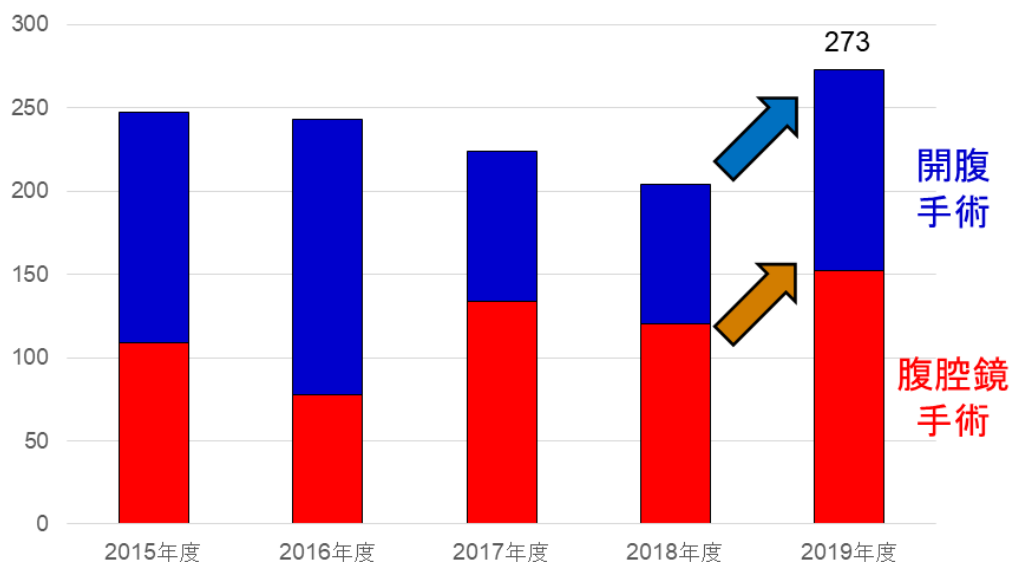
【現状と今後の展望】

熊本大学消化器外科教室から派遣された4名の医師により診療を行っています。従来の消化管外科・一般外科に加えて、2016年4月から肝胆膵領域の外科治療が可能となりました。2017年4月からは木下浩一医師と吉田 泰医師が、2018年4月からは佐藤伸隆医師が加わりました。さらに2019年4月からは赤星慎一医師が加わり腹腔鏡下手術を強化しました。2019年4月に、『がん総合的診療チーム』を立ち上げ、多職種による連携を進めています。2019年4月からは佐藤伸隆医師を中心に緩和ケア病棟を受け持っています。

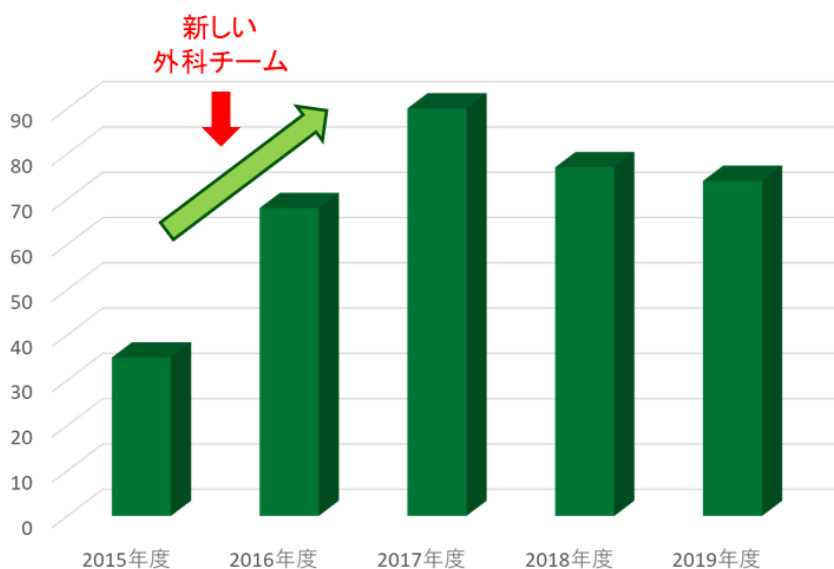
【手術件数】

外科における手術数は、2019年に50例程度増加しており、特に腹腔鏡手術の伸びが顕著です。加えて悪性腫瘍手術数は、2016年の消化器外科医局からの新しい外科チームの派遣後に倍増しています。

手術件数と腹腔鏡手術の割合（外科）



悪性腫瘍手術件数（外科）



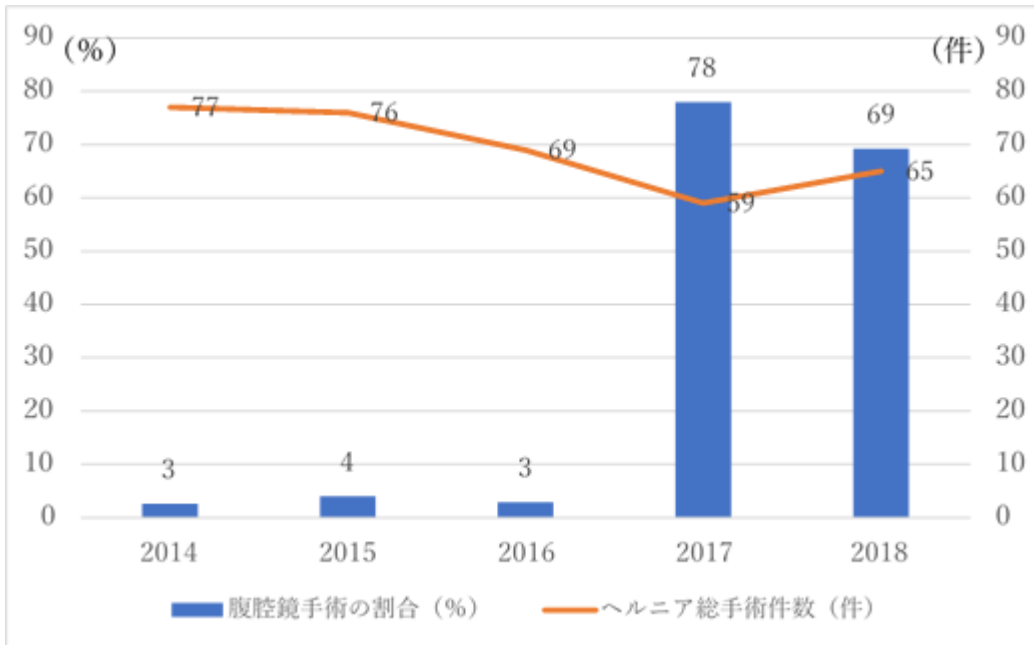
2019 年のおもな手術術式

- 胃癌切除 9 例 (腹腔鏡下 3 例)
- 大腸癌切除 23 例 (腹腔鏡下 7 例)
- 肝腫瘍切除 20 例 (腹腔鏡下 5 例)
- 胆嚢癌根治手術 2 例

胆嚢摘出術 61 例 (腹腔鏡下 53 例)
 虫垂切除 29 例 (腹腔鏡下 25 例)
 腹部・鼠径ヘルニア 59 例 (鏡視下 37 例)
 消化器外科学会高難度手術 24 例

【良性疾患】

山鹿地区には胆嚢結石や総胆管結石症が多く、可能な限り内視鏡的治療や腹腔鏡下治療による根治を目指しています。胆嚢ポリープにも腹腔鏡下治療を行っています。悪性を否定できない症例には胆嚢全層摘除やリンパ節郭清を加えています。虫垂炎、ヘルニア、腸閉塞、腹膜炎などの際にも、創が小さくて体の負担が少ない腹腔鏡下手術を第一選択にしています。良性疾患に対する腹腔鏡手術施行割合は2016年前の40%前後から70%前後に増加しました。特にヘルニアの手術では2017年度から腹腔鏡手術を積極的に行っています。鼠径ヘルニアでは再発例や前立腺手術の既往がなければ、TEP(腹腔鏡を用いた腹膜前到達法による腹膜前修復法)を第一選択に行っています。その他の腹壁癒痕ヘルニアや閉鎖孔、大腿ヘルニアなども症例に応じて腹腔鏡にて手術を行っています。ヘルニアに対する手術数と腹腔鏡手術の割合を示します。



【悪性疾患】

消化器癌による死亡数は全癌死亡の半数を超えています。カンサーボードや臨床病理カンファレンスを行いながら、患者毎に最適な治療を選択しています。2018年4月に放射線専門医の幸医師を迎え、画像診断を強化しました。さらに2019年1月からは熊本大学細胞病理学分野の菰原義弘講師と大西紘二先生を月2回お招きして、病理診断を強化するとともにカンファレンスにも参加していただいています。

胃癌や大腸癌などの消化管癌では、その進行度や全身状態に応じて内視鏡治療、腹腔鏡下手術、開腹手術を行っています。進行例では化学療法、放射線療法、緩和医療を適宜選択することで、すべてのステージの患者様への対応が可能です。特に大腸癌肝転移例では導入化学療法後に外科切除が可能になる場合があり、腫瘍内科医と相談しながらその機会を逃さないように厳密な経過観察を行なっています。同時性肝転移症例では、大腸癌原発巣と肝転移巣の同時切除を積

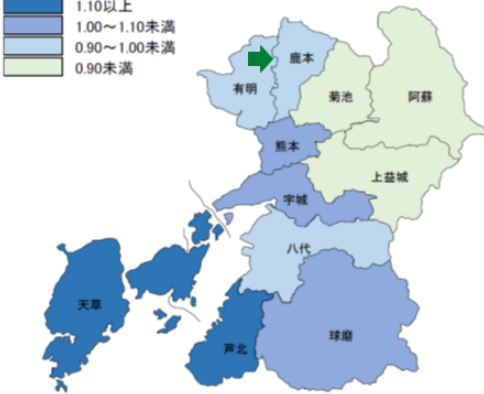
極的に行っています。

熊本地区は幸い肝癌による死亡率は低率です。しかし、B型肝炎やC型肝炎のない、生活習慣病に起因したいわゆるメタボ肝癌が増加しています。2019年の肝細胞癌の過半数がメタボ肝癌であり、さらにその半数が糖尿病(DM)を有していました。当院糖尿病内科や消化器内科の医師と協力して、メタボ肝癌の早期発見・治療に努めています。肝癌の治療では肝切除術、腹腔鏡・胸腔鏡下肝切除、ラジオ波・マイクロ波凝固療法、肝動脈化学塞栓療法、薬物療法を癌の進行度と肝予備能の両面を考慮して選択しており、そのすべてを当院で施行可能です。低悪性度の肝腫瘍に対しては腹腔鏡下手術を取り入れ、患者様の負担軽減と早期退院を目指しています。2019年12月までの3年9ヵ月間に、肝がんの肝切除78例、局所凝固療法71例、肝動脈化学塞栓療法148例をすでに行なっています。

熊本県における肝癌の標準化死亡比

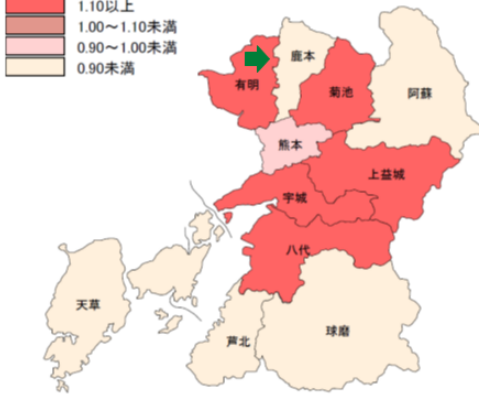
男性

標準化死亡比(熊本県=1.00)



女性

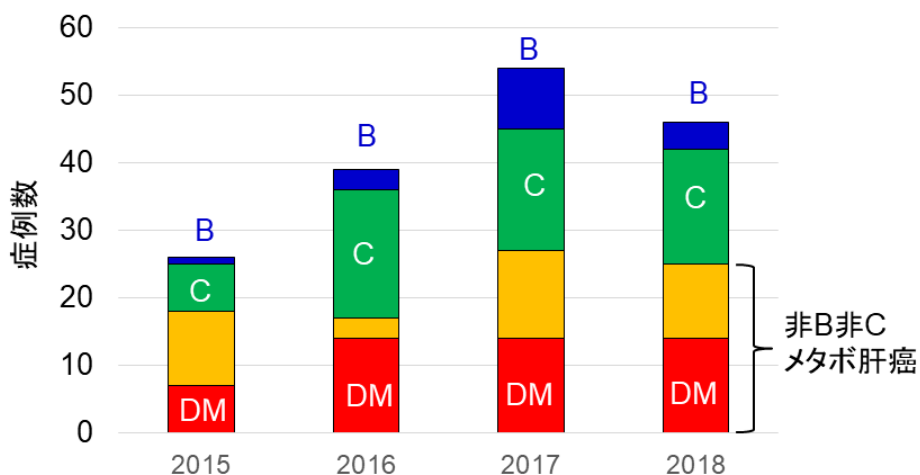
標準化死亡比(熊本県=1.00)



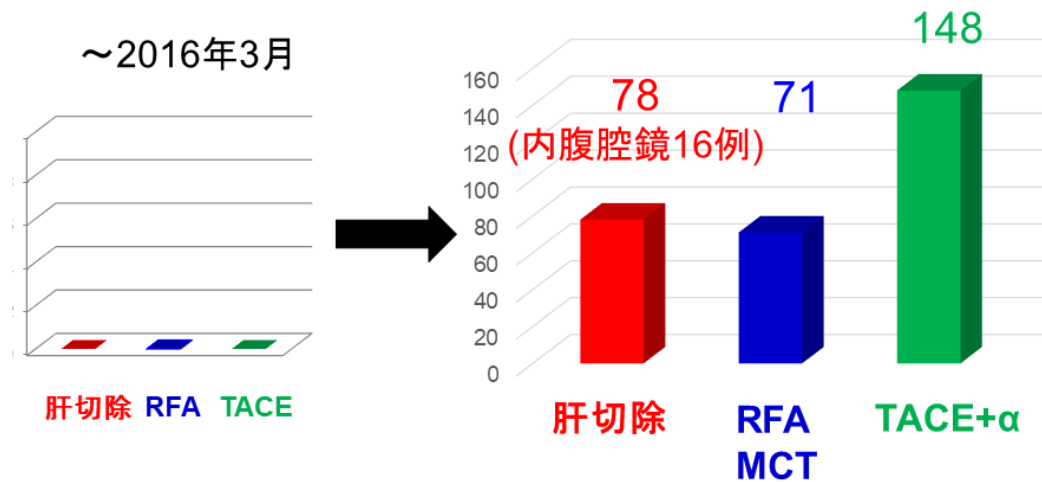
熊本県がん登録 2014年(第18報)

肝癌治療患者数と背景肝割合の推移

2015年1月～2018年12月



2016年4月～2019年12月



山鹿市民医療センターにおける肝がん治療の内訳

RFA:ラジオ波焼灼療法、MCT:マイクロ波凝固療法、TACE:肝動脈化学塞栓療法

胆道癌・膵癌に対しては、厳密な術前検査や審査腹腔鏡を行い、安全かつ根治的な切除を心がけています。切除不能症例には化学療法や放射線療法を中心とした集学的治療に取り組んでいます。当院消化器内科は膵胆道系の内視鏡診断や内視鏡治療を積極的に行っています。

日本外科学会、日本消化器外科学会、日本消化器病学会、日本肝臓学会、日本胆道学会、日本消化管学会の専門医・指導医の資格を有する常勤医による質の高い、最新の医療の提供が可能です。当院は従来の日本外科学会認定施設、日本消化器外科学会修練施設に加えて、2016年から日本消化器病学会と日本肝臓学会の認定施設に指定されました。2017年には日本消化器外科学会と日本胆道外科学会の認定施設となり、高難度腹腔鏡肝切除の認可施設となりました。さらに2019年には日本消化管学会胃腸科正規指導施設に認定されました。これらすべての認定を受けた施設は県内で3施設のみです。

化学療法は、がん薬物療法専門医である陶山浩一医師とがん化学療法認定看護師、認定薬剤師を中心におもに外来で行なっています。化学療法の施行総数は倍増しています。

化学療法件数の年度別推移



このように、消化器疾患全般の症例に対してガイドラインやエビデンスに基づいた医療を提供しています。日々の診療では患者様にとって良好な QOL が保てるように心がけ、さらには常に患者様やご家族の気持ちに寄り添う医療を心がけていきます。消化器内科や放射線科の医師とも毎週カンファレンスを行い、協力して診療を行っています。

当科は教育や学術活動にも力をいれています。昨年度には熊本大学の初期研修医 1 名、研修医の地域医療研修 4 名、地域医療クリニカル・クラークシップに基づいた医学部学生 8 名の受け入れを行いました。本年度も引き続き研修医と学生の教育に尽力し、バランスの良い医師の育成を目指します。

山鹿市民医療センターでは山鹿市の共催を得て、4 回の市民公開講座を開催しました。熊本県がん診療連携拠点病院の活動の一環です。平成 29 年 1 月に第一回『増えている大腸がんー大腸がんを学びましょう』を、同年 10 月に第二回『まだまだ多い胃がんー胃がんと一緒に学びましょう！』を、平成 30 年 11 月に第三回『よく知ろう！乳がんのことー診断から治療までー』を、令和元年 12 月に『がんを考えるー癌の予防、最新治療から緩和ケアまでー』を行いました。いずれも多数の市民の皆様の出席がありました。引き続き令和二年以降には、『難治性の肝胆膵がんに挑む(仮題)』や『最も多い呼吸器のがんを学ぶ(仮題)』などを施行予定です。積極的な参加をお待ちしています。さらに外科関連の講演会を定期的に開催し、地域の活性化に取り組んでいます。

国内全国学会では、筆頭演者として 11 演題(内、上級演題 4 題)を発表しました。内訳は、日本外科学会 2 題、日本消化器外科学会 2 題、日本肝胆膵外科学会 2 題、日本癌治療学会 1 題、JDDW(日本消化器病関連学会週間)3 題、日本臨床外科学会 1 題でした。国際学会演題としては IASGO で招請講演 1 題を発表しました。論文としては、英文論文・著書 12 編(内、First または 2nd author 10 編)、和文筆頭 6 編を報告しました。内容については、外科業績をご参照ください。

2019年度 外科業績

学会発表

筆頭発表、座長のみを記載

第119回日本外科学会定期学術集会 2019年4月

- 木下浩一:地域中核病院における大腸癌同時性肝転移に対する腹腔鏡下の大腸・肝同時手術の導入
- 赤星慎一:直腸癌に対する低位前方切除術における手術侵襲および術後合併症と予後の関連

The 2nd World Congress of the International Laparoscopic Liver Society (ILLS2019) 2019. 5

- Beppu T: Oral Session 3 (Chair)

第55回日本肝臓学会2019年5月

- 別府 透:セッション13 肝疾患診断2(座長)

The 31st Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery (第31回 日本肝胆膵外科学会) 2019.6

- Beppu T: Minimal requirements of hemihepatectomy for board-certified HBP surgeons (Educational video)
- Beppu T: International clinical practice guidelines for metastatic liver tumors: An interim report on colorectal liver metastases (Special lecture)

第41回癌局所療法研究会 2019年6月

- 佐藤伸隆:部分的脾塞栓術が集学的治療の継続に大きく貢献した大腸癌多発肝転移の一例
- 木下浩一:様々なアプローチの局所凝固療法と化療で長期生存が得られている大腸癌肝転移の一例

第74回日本消化器外科学会総会 2019年7月

- 別府 透:要望演題31 蛍光観察による消化器外科手術のメリット1(座長)
- 佐藤伸隆: 部分的脾塞栓術の新しい展開
- 赤星慎一:再発大腸癌に対する治療戦略

31th Anniversary IASGO World Congress, Bangkok, Thailand on October 3-5, 2019

- Beppu T: Multidisciplinary treatment for colorectal liver metastases with special attention to ablation therapy (invited lecture)

第57回日本癌治療学会学術集会

- 別府 透:JSCO/JHBPS ジョイントシンポジウム

転移性肝癌国際診療ガイドライン公聴会

『転移性肝癌国際診療ガイドラインー大腸癌肝転移』

2019年度日本消化器関連学会週間 (JDDW 2019) 2019年11月

- 別府 透:肝臓10(座長)

- 木下浩一:閉鎖孔ヘルニアに対する超音波ガイド下整復と腹腔鏡下腹膜外到達法(TEP)の応用
- 吉田 泰:手術と術後化学療法により5年間無再発生存中の上腸間膜静脈腫瘍塞栓を伴う進行胃癌の経験
- 佐藤 伸隆:画像所見の経時変化により術前診断に苦慮した肝硬化型血管腫の一例

第81回日本臨床外科学会総会 2019年11月

- 別府 透:総会特別企画 医師の労働環境を取り巻く社会変化と職場におけるダイバーシティ『外科医を取り巻く環境の変化と求められるダイバーシティ』

第13回肝臓内視鏡外科研究会 2019年12月

- 別府 透:ワークショップ「技術認定取得に向けた各施設の取り組み」(司会)

第41回九州肝臓外科研究会 2020年1月

- 別府 透:AP-shuntを伴う巨大肝癌に対するTACE、lenvatinib投与後のconversion肝切除

講演

別府 透

- 2019年 11月9日 熊本大学消化器外科開講記念会(熊本)
【院長就任講演】『県北の真の基幹病院』を目指して
- 2019年 9月 27日 第6回 県北オンコロジー研究会(山鹿)
【特別講演】 肝癌と栄養・サルコペニア・生活習慣病
- 2019年 9月 7日 西濃がん診療研究会学術講演会(岐阜)
【特別講演】 進化する肝細胞癌・大腸癌肝転移の集学的治療
- 2019年 8月23日 生活習慣病と癌セミナー(山鹿)
【特別講演I】「肝癌の分子標的治療における外科手術のインパクト」
- 2019年 7月26日 Chugai GI Cancer Symposium 2019(熊本)
【教育講演】 大腸癌肝転移のConversion Therapy -長期成績に着目して-

赤星慎一

- 2020年 2月21日 筑後・熊本北部大腸がんセミナー(大牟田)
大腸がん治療におけるザルトラップ使用経験
- 2020年 2月 13日 第10回 熊本がん診療連携研究会(熊本)
【パネルディスカッション】地域の現状と今後の展望
- 2019年11月29日 第4回 県北・大牟田ビデオカンファレンス(玉名)
テーマ:「腹腔鏡下S状結腸切除術」症例提示②

佐藤伸隆

- 2019年 9月 27日 第6回 県北オンコロジー研究会(山鹿)
脾機能亢進症の治療一部分的脾塞栓術(PSE)を中心に

木下浩一

- 2019年9月6日 熊本医師会学術講演会—がん関連血栓・塞栓症(山鹿)
周術期DOAC投与が有用であったがん関連血栓症合併肝癌の経験
- 2019年11月23日 第11回熊本県合同輸血療法委員会講演会
院内輸血療法委員会活動報告

論文

英文

First and 2nd author

1. **Akahoshi S**, Beppu T, Mori Y, Kinoshita K, Sato N, Kikuchi K. Does laparoscopic liver resection for colorectal liver metastases provide a true survival benefit compared with open liver resection? Hepatobiliary Surg Nutr (in press).
2. **Sato N**, Beppu T, Kinoshita K, Yuki H, Suyama K, Yuruki H, Motohara T, Chiyonaga S, Akahoshi S. Partial splenic embolization for lenvatinib therapy-associated thrombocytopenia among patients with hepatocellular carcinoma. Anticancer Res 2019 Dec;39(12):6895-6901
3. **Sato N**, Beppu T, Kinoshita K, Yuki H, Suyama K, Chiyonaga S, Motohara T, Komohara Y, Hara A, Akahoshi S. Conversion hepatectomy for huge hepatocellular carcinoma with arterioportal shunt after chemoembolization and lenvatinib therapy. Anticancer Res 2019 Oct;39(10):5695-5701.
4. **Akahoshi S**, Beppu T, Sato N, Kinoshita K. Is laparoscopic mesohepatectomy superior to the open approach for patients with centrally located hepatocellular carcinoma? Laparoscopic Surg 2019.
5. **Kinoshita K**, Beppu T, Sato N, Akahoshi S, Yuki H, Yoshida Y. Preoperative 1-week diet can markedly decrease blood loss during hepatectomy. Transl Gastroenterol Hepatol. 2019 Mar 26;4:20.
6. **Kuramoto K**, Beppu T, Irie K, Kinoshita K, Sato N, Akahoshi A, Yoshida Y, Yuki H, Hamada Y. Hepatobiliary and Pancreatic: A very rare intraductal growth type primary schwannoma of hilar bile duct. J Gastroenterol Hepatol 2019 Jun 18. doi: 10.1111/jgh.14679. [Epub ahead of print]
7. **Yoshida Y**, Beppu T, Kinoshita K, Sato N, Akahoshi A, Yoshida Y, Yuki H, Saito S, Kitaoka M, Nasu J. Five-year recurrence-free survival after surgery followed by oral chemotherapy for gastric cancer with portal vein tumor thrombosis. Anticancer Res 2019 Apr;39(4):2233-2238
8. Kobayashi S, **Beppu T**, Honda G, Yamamoto M, Takahashi K, Endo I, Hasegawa K, Kotake K, Itabashi M, Hashiguchi Y, Kotera Y, Sakamoto K, Yamaguchi T, Morita S, Tabuchi K, Miyazaki M, Sugihara K. Survival Benefit of and Indications for Adjuvant Chemotherapy for Resected Colorectal Liver Metastases-a Japanese Nationwide Survey. J Gastrointest Surg. 2019 Jun 13. doi: 10.1007/s11605-019-04250-9. [Epub ahead of print]
9. Miyata T, **Beppu T**, Imamura YU, Hayashi H, Imai K, Chikamoto A, Yamashita YI, Fukubayashi K, Ishiko T, Baba H. A 12-year recurrence-free survival after multidisciplinary treatment for a patient with combined hepatocellular-cholangiocarcinoma. Anticancer Res 2019 Apr;39(4):2139-2144

3rd author以降

1. Nitta H, Kitano Y, Miyata T, Nakagawa S, Mima K, Okabe H, Hayashi H, Imai K, Yamashita YI, Chikamoto A, **Beppu T**, Baba H. Validation of Functional Assessment for Liver Resection Considering Venous Occlusive Area after Extended Hepatectomy. J Gastrointest Surg. 2019 May 29. doi: 10.1007/s11605-019-04234-9. [Epub ahead of print]
2. Arima K, Nitta H, **Beppu T**, Nakagawa S, Okabe H, Imai K, Chikamoto A, Yamashita YI, Yamashita Y, Baba H. Impact of Repeated Hepatectomy on Liver Regeneration in Hepatocellular Carcinoma: A Propensity Score-based Analysis. Anticancer Res 2019 Feb;39(2):965-970.

英文著書

1. **Beppu T**, Wakabayashi G, Imai K, Yoshida Y, Baba H. Staging Classifications of Colorectal Liver Metastases, Colorectal Cancer Liver Metastases, 10.1007/978-3-030-25486-5_6, (65-85), (2019). Colorectal Cancer Liver Metastases: A Comprehensive Guide to Management, ed. by Correia MM, Springer DE

和文

1. **佐藤 伸隆**、別府 透、木下浩一、吉田 泰、赤星慎一、本村 裕、高野 定. 部分的脾塞栓術 (PSE) が集学的治療の継続に大きく貢献した大腸癌多発肝転移の一例. 癌と化学療法 2019 (in press).
2. **木下 浩一**、別府 透、幸 秀明、佐藤 伸隆、福林 光太郎、赤星 慎一、吉田 泰. 様々なアプローチの局所凝固療法と化学療法で長期生存が得られている大腸癌多発肝転移の一例. 癌と化学療法 2019 (in press).
3. **別府 透**、他. JSGS71 パネルディスカッション4 大腸癌肝転移に対する集学的治療—新たなエビデンスの創出をめざして. 日本消化器外科学会雑誌 2019
4. **別府 透**、宮田辰徳、今井克憲. 3. 術式別の手術手技 部分切除. 腹腔鏡下肝切除ガイド、南山堂. 68-75、2019
5. **別府 透**、他. 肝アブレーション治療 経皮的、内視鏡下、開腹下アブレーションの基本. 消化器外科手術手技シリーズ『肝、脾』、学研メディカル秀潤社 2019
6. **別府 透**、今井克憲、林 洋光、木下浩一、佐藤伸隆、吉田 泰. 化学療法成熟期における大腸癌肝転移に対する手術適応基準の構築. 臨床雑誌『外科』特集／肝胆膵外科の臨床研究 update 2019 6: 621-628, 2019.

小 児 科

【診療内容と現状】

当科では、週3回(月、水、木曜日)9時から16時30分までの、外来診療を行っております。毎週水曜日の午後は、予防接種を行っています。予防接種前には、発育、発達で心配なことはないか、お母様の子育てが楽しく安心してできているかなども合わせてお聞きして診察しています。年間外来患者数は672名、予防接種は283名でした。

一般外来の他、新生児回診、退院後外来フォロー、1週間健診、1ヵ月健診を行っており、希望者には4ヵ月、7ヵ月、10ヵ月、1歳、1歳半、2歳健診を行っています。

院内での帝王切開や異常分娩の時には、出産に立ち会い、安全な新生児管理を目指しています。また、病棟の助産師と協力して、「赤ちゃんにやさしい病院」を目指し、出生後すぐに抱っこする早期母子接触を積極的に行っています。お母さんと赤ちゃんを離さない母子同室制で、自然な形の母乳育児支援を行いながら、自宅に帰って安心して楽しく育児ができるよう支援しています。

今年度の当院での分娩数は41名。正常新生児出生数は38名でした。正常新生児の1ヵ月健診での完全母乳率は60%、混合栄養は40%、人工栄養のみは0%で、1ヵ月健診までは全員が母乳を与えていました。混合栄養の中でも母乳不足感から人工乳を1日1～2回だけ補足する方が多く見られ、それらの方と完全母乳の方を合わせると、全体の77%の方がほぼ母乳栄養でした。

また一般外来では、起立性調節障害や夜尿症治療も行っています。中学生では、ゲームやスマホを長い時間悪い姿勢で続けることによる頭痛や胃腸の不調、体調不良、不登校などが増えているように思われます。ご家族と一緒にどうすればよい方向に向くのかを考えていくようにしております。

現在非常勤医1名のため、入院管理はできない状況であり、患者さまには大変ご迷惑をおかけしており、申し訳ありません。入院や専門的な医療が必要な場合には、専門の病院に紹介させていただいております。

【スタッフ】

石井 真美(非常勤医師)

資格・所属学会：日本小児科学会(専門医)、

IBCLC(国際認定ラクテーション・コンサルタント)

日本新生児成育医学会

日本周産期新生児医学会

産婦人科（女性外来）

【診療内容と現状】

婦人科外来は、常勤医師 2 名、非常勤医師 1 名で行っています。常勤医師は、平日の午前中に一般外来業務を行い、午後は手術、1 ヶ月健診、手術説明、入院中の患者さまの処置などを行っています。非常勤医師の片渕先生は火曜日（毎週）と木曜日（隔週）の午後に女性外来の外来診療をされています。

当科では、妊婦健診、婦人科腫瘍、不妊症、更年期、骨盤臓器脱など幅広く女性のヘルスケアに関する診療を行っております。周産期に関しては、山鹿地域でもハイリスク妊娠は増加しており、熊本大学病院、福田病院、熊本市民病院と連携し、診療を行っています。婦人科悪性腫瘍に関しても、熊本大学病院、熊本医療センターと連携し、術後の化学療法や加療後の経過観察などを行っています。

【スタッフ】

値 賀 さくら 役職：産婦人科長
所属学会：日本産婦人科学会専門医

福 島 泰 斗 役職：産婦人科医
所属学会：日本産婦人科学会専門医、日本産婦人科医会母体保護法指定医
熊大病院群臨床指導医、日本周産期新生児学会蘇生法認定医、日本癌治療学会会員

片 渕 美和子 役職：非常勤医師
所属学会：日本産婦人科学会専門医、日本思春期学会、日本更年期学会、
日本性感染症学会

【臨床業務内容】

令和元年度の総分娩数は、42 例で、そのうち帝王切開 10 例（予定帝王切開 6 例、緊急帝王切開 4 例）でした。総手術数は 53 例で、主に帝王切開、子宮筋腫、卵巣腫瘍、子宮脱、流産に対する手術などを行っています。

麻 酔 科

【診療内容と現状】

1. 術中の安全管理を第一に、周術期の精神的、身体的ストレスの軽減、術後の疼痛軽減、早期回復を考慮して麻酔を行っています。
2. 術前患者の診察は、術前日に手術室前室/記録室あるいは病棟を訪問し行っています。簡単な診察のほか、予定している麻酔法、食事/飲水制限、当日の服用薬剤などを説明し、患者さまから質問や要望を伺ったあと、麻酔同意書に署名を頂きます。意思疎通が困難な方、あるいは未成年者の場合、ご家族さまから署名を頂いています。

【スタッフ】

1. 加納 龍彦(常勤医):麻酔科長[日本麻酔科学会指導医・専門医]
2. 服部 美咲(非常勤医):久留米大麻酔科所属(金曜日)[日本麻酔科学会標榜医・認定医]

【臨床業務内訳】

1. 手術予定:予定手術の第1例目は、月曜日は 9:00、火～金曜日は 8:45 に入室して頂き、麻酔を開始しています。緊急/準緊急手術も可能な限り柔軟に受入れています。
2. 麻酔法の選択、術前管理・術後疼痛対策:予定術式・所要時間、術中体位、術前既往歴・合併症などのほか、患者さま・執刀医の要望を参考に決定します。
3. 麻酔科管理症例数／手術症例数の年次推移

年度別	H 24	H 25	H 26	H 27	H 28	H 29	H 30	R 1
全身麻酔	645	685	646	663	663	637	621	603
硬麻併用	140	174	121	139	140	150	126	109
麻酔管理合計	818	813	748	717	725	678	633	617
局所麻酔	224	242	192	253	264	276	383	484
総症例数	1,010	1,066	1,012	993	1,108	1,098	1,100	1,101

4. 令和元年度各診療科の特徴

外科(医師名、252 例):肝腫瘍(肝切 20 例、熱凝固 10 例)、

腹腔鏡手術 150 例(外科手術症例の 60%)など

整形外科(医師 5 名、426 例):人工関節(THA、TKA、人工骨頭)63 例、

大腿骨骨折 128 例(80 歳以上 90 例、女性 103 例)など

産婦人科(医師 2 名、31 例):帝王切開 11 例、子宮摘出 4 例など

眼科(医師 1 名、394 例):白内障手術 126 例、硝子体腔注射 264 例など

【今後の課題・展望】

- ① 産婦人科、泌尿器科、耳鼻科など各診療科の手術体制の整備、充実
- ② 麻酔科医 2 名体制へ
- ③ ERAS の促進:術前水分摂取 ORT の促進、手術侵襲の軽減化、手術時間の短縮、術後の適切な疼痛管理など
- ④ 更なる安全確認・確保:抗血小板薬/抗凝固薬の術前休薬期間の確認、執刀前タイムアウトの徹底、異物体内遺残防止対策など

放 射 線 科

【診療内容】

画像診断(CT、MRI)、血管造影下治療

【スタッフ】

幸 秀明

診療部放射線科長

専門分野:画像診断

資格・所属学会:医学博士、日本医学放射線学会(放射線診断専門医、研修指導者)、
日本核医学会(核医学専門医、PET 核医学認定医)

【臨床業務】

CT 件数 : 6,083 件(内、共同利用 146 件)

MRI 件数 : 2,192 件(内、共同利用 718 件)

血管造影下治療 : 40 例(冠動脈化学塞栓術、門脈塞栓術、部分的脾塞栓術、経カテーテル動脈塞栓術など)

【現状と今後の展望】

MRI、CT など様々な診断機器を用いて、各科に適切な画像を配信すると共に、各科とカンファレンス等を通して情報交換を行い、画像診断を提供しています。画像診断を用いた血管造影下治療にも取り組んでいます。

当科では、MRI・CT の共同利用も積極的に受け入れております。昨年度は CT、MRI ともに一昨年以上にご利用して頂き、この場をお借りして、お礼申し上げます。

今後も山鹿地域の医療に貢献できるように日々精進して、迅速、精確な画像診断を提供するよう心掛けていきます。

2020 年度業績

論文

Kawasaki T, Kidoh M, Kido T, Sueta D, Fujimoto S, Kumamaru KK, Uetani T, Tanabe Y, Ueda T, Sakabe D, Oda S, Yamashiro T, Tsujita K, Kato S, Yuki H, Utsunomiya D. Evaluation of Significant Coronary Artery Disease Based on CT Fractional Flow Reserve and Plaque Characteristics Using Random Forest Analysis in Machine Learning. Academic radiology 2020;27(12):1700-1708.

Akahoshi S, Yamamura K, Sato N, Oda E, Kinoshita K, Yuki H, Motohara T, Deguchi A, Komohara Y, Beppu T. A hepatic sclerosed hemangioma with drastic changes in contrast-enhanced ultrasonography. Clinical journal of gastroenterology 2020;13(6):1252-1257.

Kinoshita K, Beppu T, Yuki H, Sato N, Fukubayashi K, Akahoshi S, Yoshida Y. [A Case of Long-Term Survival after Chemotherapy and Ablation Therapy Using Various Approaches for Multiple Colon Cancer Liver Metastases]. Gan to kagaku ryoho Cancer & chemotherapy 2020;47(2):307-309.

Oda E, Beppu T, Kinoshita K, Yamamura K, Sato N, Yuki H, Chiyonaga S, Motohara T, Komohara Y, Akahoshi S. Hepatic Xanthogranuloma that Originated from a Liver Cyst and Mimicked a Malignant Tumor. In vivo (Athens, Greece) 2020;34(4):2067-2071.

Sato N, Yamamura K, Oda E, Akahoshi S, Yuki H, Motohara T, Miyamoto H, Yoshii D, Komohara Y, Beppu T. Cholangiolocarcinoma With Multiple Recurrences Successfully Treated With Repeated Liver Resection and Radiofrequency Ablation. Anticancer research 2020;40(12):7147-7153.

Yamamura K, Beppu T, Kinoshita K, Oda E, Sato N, Yuki H, Motohara T, Miyamoto H, Kawaguchi H, Komohara Y, Akahoshi S. Hepatocellular Carcinoma With Extensive Cancer-associated Thrombosis Successfully Treated With Liver Resection and Direct Oral Anticoagulant: A Case Report. Anticancer research 2020;40(11):6465-6471.

Yamamura K, Beppu T, Sato N, Kinoshita K, Oda E, Yuki H, Motohara T, Miyamoto H, Komohara Y, Akahoshi S. Complete Removal of Adrenal Metastasis in Hepatocellular Carcinoma Using Indocyanine Green Fluorescent Imaging. Anticancer research 2020;40(10):5823-5828.

Yamamura K, Beppu T, Sato N, Oda E, Kinoshita K, Yuki H, Motohara T, Miyamoto H, Oda T, Akahoshi S. Huge hepatocellular carcinoma with extrahepatic collateral arteries successfully treated by multidisciplinary treatment including laparoscopic devascularization: a case report. Clinical journal of gastroenterology 2020.

外 来 化 学 療 法

【令和元年度総括】

当センターでは平成 18 年 2 月から外来化学療法室を開設し、現在は週 3 日（火・水・木）、ベッド数 8 床で稼働しています。治療の適正性の審査・レジメン審査・管理、病棟化学療法に対する指導などを一括して行い、病院全体で質の高いがん診療が行われるように専門のスタッフによる活動を行っています。今年度も平成 28 年より引き続き熊本大学腫瘍内科の陶山医師による外来診療が毎週水曜日に行われ、診療科を超えて集学的治療を目指しています。呼吸器内科の常勤医師が不在となり、呼吸器疾患の点滴治療は出来なくなりましたが、肝細胞癌における点滴治療の選択肢が増え、対象患者さまも増加しています。また、免疫チェックポイント阻害薬も当院で施行可能となりました。治療の幅が広がる中、化学療法の知識・技術・看護ケアの向上にも努めています。

令和元年度 疾患別化学療法延べ実施件数 （予約件数は 816 件）

実施 658 件(前年度より -79 人件) ＊外来 601 件 ＊病棟 57 件

直腸・結腸癌	145 件	胆道癌	10 件	膀胱癌	7 件
膵臓癌	184 件	胆管癌	74 件	卵巣癌	23 件
胃癌	51 件	肺癌	8 件	リウマチ	14 件
乳癌	116 件	食道癌	10 件	その他	16 件

＊ 登録レジメン数 143

【スタッフ】

医 師：千代永 卓

木下 浩一(がん治療認定医)

薬 剤 師：柴田 佳代、生田 佳嵩、浦田 詩乃

看 護 師：弓掛 まり(がん化学療法看護認定看護師)

竹田 由香里(がん化学療法看護認定看護師)

【今後の課題・展望】

当センターは県指定のがん診療連携拠点病院でもあり、今後も治療を受けられる患者さまは増加すると考えられます。一人一人のがん患者さまに寄り添い、治療のサポートや QOL の向上に取り組むと考えています。がん化学療法は進歩しており、免疫療法など個別化医療も進んできています。新しい治療や日々アップデートされるエビデンスに対応し、安全・確実・安心な治療の提供を心がけていきたいと思っています。

乳 腺 外 来

【診療内容と現状】

毎週火曜日に乳腺外来を行っています。がん検診の結果精密検査が必要な方、乳がんの疑いのある方、乳がん治療が必要な方などを対象として診療を行っています。

日本では、乳がんにかかる女性は年々増加傾向にあり、女性の壮年層(30代～64歳)では死亡原因の1位となっています。

乳がんの患者様をチームでサポートする「ブレストケアチーム」は、医師・看護師・作業療法士・薬剤師などで構成され、身体のみならず精神的、社会的なケアも行っています。毎月チームカンファレンスを行うとともに患者会の開催、地域においては広報誌等で乳がん検診の啓発活動を行っています。

【スタッフ】

医 師：豊永 政和(事業管理者)
末田 愛子(非常勤医師・熊本大学病院)

薬 剤 師：柴田 佳代

看 護 師：古閑 友美、西口 富士乃、原 沙織、社方 紀代実
横手 貴子、豊永 貴子、江藤 千鶴

作業療法士：脇山 美紀

【診療業務内訳】

◇令和元年度 乳腺外来受診者数

新規	182 名
再来	1,466 名
総数	1,648 名
乳癌患者実人数	748 名
細胞診検査	42 名
病理組織検査	35 名
乳癌化学療法	77 名

【今後の展望】

乳癌の罹患率は増え続けており、欧米では低下しつつある乳癌での死亡率も、日本では依然として増加しています。乳癌の診療はますます進歩していくことが予想されています。乳腺外来では、今後も地域の患者さまが安心して検査や治療を受けていただけるよう支援していきたいと考えています。

禁 煙 外 来

【診療内容と現状】

当センター利用者の受動喫煙防止、公的医療機関としての禁煙対策、治療、教育目的に平成22年7月に開設し10年度目になります。

〈平成31年4月1日から令和2年3月31日まで〉

禁煙外来受診	19例
禁煙率	84.2%

【スタッフ】

医 師 : 坂田 和子(呼吸器内科医、医学博士)
看 護 師 : 東 幸代(禁煙専任看護師)

【臨床業務】

診療は毎週月曜日すべて予約外来です。

禁煙治療は5回、12週のプログラムで、禁煙補助薬として、内服薬(バレニクリン)と貼付薬(ニコチンパッチ)のいずれかを使用して行います。

受診時には患者さまが記入された禁煙日誌を参考に患者さまそれぞれに応じたアドバイスを行い禁煙を進めていきます。診察室には一酸化炭素ガス分析装置[マイクロモニター]を備え、診察時に治療効果の把握を行っております。

【今後の課題・展望】

禁煙外来10年度目です

2019年度は2018年に公布された改正健康増進法の段階的施行により加速的に禁煙は前進した年でした

当科でも禁煙率で2018年度に比べ21.2ポイントアップと、患者さまの意識や取り組みが格段に変化しているのを実感しました

公的医療機関での禁煙外来は、啓蒙、教育的意義も大きく、引き続き診療を充実して参ります。

禁煙医療の重要性が社会に周知された現在、日常の診療に関わるすべての医療従事者の禁煙推進、意識向上はより一層求められています。

睡眠時無呼吸外来

【診療内容と現状】

週 2 回(火、木)の予約診療で行っています。

〈令和元年度(平成 31 年 4 月 1 日より令和 2 年 3 月 31 日)の診療内訳〉

CPAP	132 例
ASV	1 例
終夜睡眠ポリグラフ簡易検査	26 例
終夜睡眠ポリグラフ精密検査	5 例
治療継続率	91.7%

【スタッフ】

坂田和子（呼吸器内科医、医学博士）

【臨床業務内訳】

検査は入院が終夜睡眠ポリグラフ(PSG)精密検査

(ソムノスクリーニングシステム、ソムノタッチ RESP)反復睡眠潜時検査(MSLT)

外来が簡易 PSG(LS120,LS140,)、WATCHpad にて行っております

外来診察時に SAS データ専用ノートパソコンにて、通常診療で PSG 結果説明や CPAP データ取り込みを行っています。

現在、当科での CPAP フォローは S9 レスポンド、スリープメイト 9、Jasmin、TRANSEND CPAP、DreamSter Auto Evolv、REMster Auto、Dream Station など解析ソフトを完備し各社各機種多岐にわたり行っております。

また、CPAP 患者さまのニーズにこたえて、ナステント処方指示も可能になりました。

【今後の課題・展望】

当科では CPAP 症例多数の診断、加療をはじめ、ASV 症例、睡眠相後退症候群、ナルコレプシーなど、睡眠呼吸障害全般に渡っての対応を行っています。

睡眠医療の先進先端を担い、地域の睡眠医療の充実を計ることを第一義に診療しております。

当科の特徴は、CPAP フォロー例が多く、また継続率が極めて高い点です。

CPAP フォロー例が 100 例を超える現在、月末などに受診が偏る傾向も加わりますので、スムーズな予約外来を計るよう心掛けております。

今年度は簡易 PSG の老朽化にて機器の入れ替えを余儀なく施行しました。入れ替えに際し、新規に WATCHpad を導入しましたところ、診断から導入の時間短縮が可能となりました。

ス ト ー マ 外 来

【診療内容と現状】

当ストーマ外来は、平成 8 年よりストーマ造設されている患者さまの、退院後の援助を目的として診療を開始しました。ストーマ・ケアは、中途障害となられた患者さまに技術の習得と精神的な援助を行い、ストーマを受容することで安心して社会復帰をしていただき、患者さまとご家族さまに入院前と変わらない生活を送っていただきたいと考え、ケアを行っています。

外来では、通院している患者さまのストーマの状態を見ながら、装具の選択、皮膚トラブルの対処法、必要なアクセサリーの説明などを行っています。また、病棟でのストーマ患者のコンサルトに応じ、術前の患者指導、マーキング、術後の装具選択などの指導を行っています。

その他に、苺の会(ストーマ患者の集い)を年 2 回 5 月と 11 月にテーマを決めて行っています。

【スタッフ】

医 師：佐藤 伸隆 医療技術部薬剤科長兼診療部外科医長

薬 剤 師：柴田 佳代

ストーマ・ケア外来責任者：松本 明美

ストーマ外来スタッフ：米加田 裕子、古家 茜、森山 裕子、吉安 真輝

姫井 良奈、藤本 史織、岩見 大輔、徳丸 茜、吉里 麻衣

【臨床業務内訳】

- ・毎月第 3 水曜日午後 1 時 30 分より開始 延べ 21 名の受診がありました
- ・苺の会は 5 月患者さま 5 名・ご家族 2 名、11 月患者さま 4 名の参加がありました
- ・九州オストメイトの会：山鹿菊池ブロック交流会へ協力しました
- ・平成 28 年度よりストーマ・ケアナース学習会受講により、ストーマサイトマーキングの点数加算がとれるようになりました

【今後の課題・展望】

- ・広報やまがに原稿を投稿し地域に向けて広報活動を行い、ストーマ外来としての活動を充実させる
- ・令和元年度もストーマ・ケアナース学習会を出張で受講する
- ・皮膚・排泄ケア認定看護師になれる看護師を育て、活動できる基盤を整える
- ・ストーマ・ケアができるスタッフを育成する

緩和ケア外来

【診療内容と現状】

緩和ケアとは、文字通り症状を緩(ゆる)め、和(やわ)らげるために、お世話(ケア)をすることです。もともとは根治が難しい末期癌患者さまを対象に始まりました。しかし現在では、がん治療中の患者さまでも早期から痛みを和らげることや、がん以外の病気の苦痛を和らげることも緩和ケアの役割と考えられるようになってきています。また、患者さまの精神的なサポートやご家族さまの心のケアを行っていくことも緩和ケアの重要な役割です。

平成 23 年 7 月より緩和ケア外来を開設し、入院患者のみならず、外来通院中の患者さまやご家族さまなどへの緩和ケアの提供を行っています。

【スタッフ】

医 師：坂田 典史(緩和ケア内科:緩和ケア担当医)
担当看護師：村上 美香(緩和ケア認定看護師)、堤 里美(緩和ケア看護師長)
相 談 員：福島 大志(社会福祉士)

【臨床業務内訳】

診療は、毎週金曜日の 14:00～16:00 までの予約制で行っています。

積極的治療後に、緩和ケアにギアチェンジされた患者さまの転院依頼や、治療中の併診の依頼などがあります。希望や状態に応じて入院治療や、外来での症状コントロール、継続フォローを行っています。

また、緩和ケア病棟への入院希望に関する面談や、緩和ケア病棟入院前・退院後の外来フォローも行っています。

平成 25 年 4 月に開設された訪問看護室のスタッフと連携し、緩和ケア対象の患者さまの在宅支援も行っています。

＊本年度の緩和ケア外来の延べ患者数は 205 名でした。

【今後の課題・展望】

- ・緩和ケア外来と緩和ケア病棟、訪問看護室との連携
- ・地域の医療機関・福祉との連携
- ・診療に関わるスタッフの育成

緩和ケア専従医師の退職に伴い、次年度は外科医師が緩和ケアを兼務する予定で、診療日も月曜・水曜日の午前に変更になります。コミュニケーションを図りながら患者さまの緩和ケアを行っていきたいと思います。

PEG 外 来

【診療内容と現状】

PEGを造設されている患者さまが安心して日常生活を送れるよう、NSTスタッフがPEG管理者の方へ、管理方法・トラブル時の対応・栄養管理について説明を行っています。PEG管理が確立され、トラブルは減少しています。

【スタッフ】

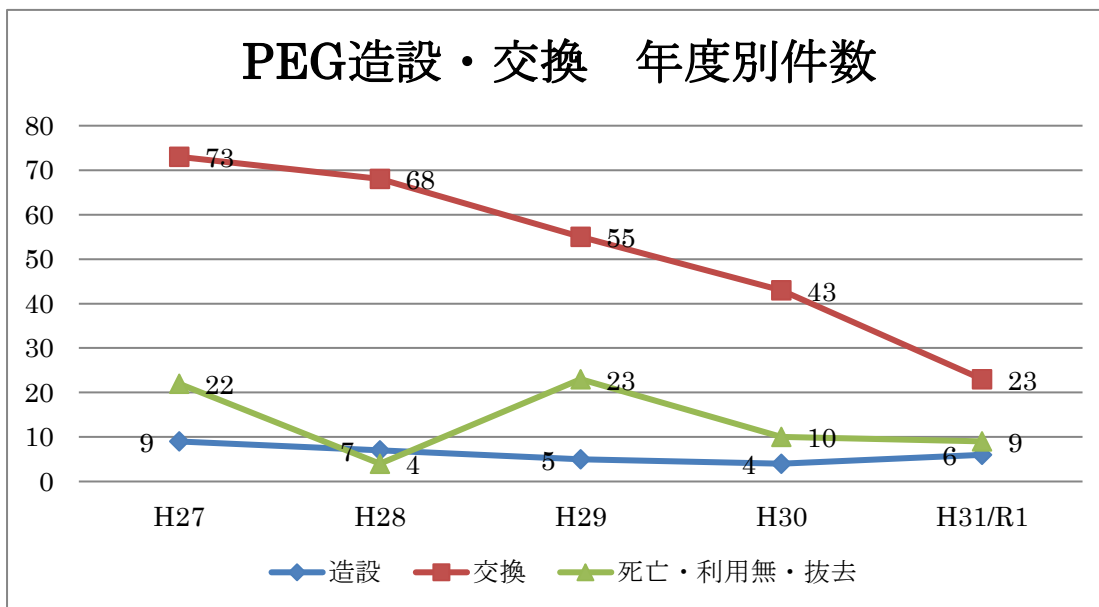
医 師：赤星 慎一(外科)

PEG 外来スタッフ：山下 裕典(責任者)、他 10 名

【臨床業務内訳】

診察は予約制で第2・4水曜日 13時00分から行っています。

本年度は、交換症例 23 例、造設症例 6 例でした。



【今後の課題・展望】

PEG栄養管理における知識・技術を共有できるよう地域で連携し情報交換ができる環境を整えていきたいと考えています。特に、利用患者さまの高齢化が進んでいるため、栄養療法についての情報交換ができるよう取り組んでいきたいと思っています。

また、COVID-19 感染拡大防止対策にも引き続き取り組んでいきたいと思っています。